

まぶら

2022 Vol.78

表紙写真：請戸漁港出初式（浪江町）





理事長あいさつ

社会福祉法人福島県社会福祉事業団

理事長 太田 健三

初冬の候、皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

はじめに、「新型コロナウイルス」についてでございますが、年末から年明けにかけて感染の第8波のピークを迎えるとの予測に加え、「インフルエンザ」との同時流行も懸念され、予断を許さない状況にあります。

国は、これまでの新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、重症化リスクが高いとされる高齢者等を守ることに重点を置いた上で、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図る「ウィズコロナ」の方針に舵を切りました。このことは、多数の入所施設を運営する当事業団にとっては、多くの行事等を制限せざるを得なかった、これまでの対応から、新たなものに変えていく契機にもなっております。感染防止対策を講じながら、お客様にどのようなサービスを提供できるのか、当事業団の智恵が試されるものと考えております。当事業団は、「施設内にはウイルスを絶対に持ち込まない」という役職員の強い共通認識のもと、ワクチン接種を含めた様々な感染防止策と施設内感染の経験を積極的に活かし、今後もお客様を守っていく覚悟でございます。

次に、「福島県やまぶき荘移転改築事業」につきましましては、令和5年度完成を目指し、今年度は土地造成工事が順調に進んでおります。地域の皆様に愛される特別養護老人ホームの完成を目指し、引き続き取り組んで参ります。また、福島県の指定管理者施設である「福島県けやき荘」及び「福島県かしわ荘」の建替計画につきましましては、現在、県によるけやき荘の建築工事が最終段階に入っており、当事業団としましては、新たな施設が完成するまで、県等関係機関との連携を図り、協力し続けて参りたいと考えております。

最後に、予断を許さない新型コロナウイルスのみならず、地震や大雪等の自然災害にも万全の備えをとりながら、今後もお客様の「安全・安心」を第一に、地域社会の一員として、法人の使命を果たすべく、果敢に挑戦して参りますので、皆様には一層の御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

おうち時間の 変化

『想い』を『かたち』にする支援

コロナ禍が長期化する中、社会経済活動の正常化に向けた『ウイズコロナ』という新たな段階へと移行しています。

当法人においても、面会や外泊、行事や日中活動等で、お客様には制限が求められ、不満や要望等に対して、メンタルケアを含め、職員がいかに向き合い、どう応えていくかが問われていると感じています。

一昔前、入所施設は集団生活であるが故の慣習から、行事は「個人のため」ではなく、「みんなのため」という意味合いが強かったように思います。もちろん施設の一イベントを完全否定するわけではなく、施設ならではの楽しみ方の共有であって、心待ちにされている方もたくさんいます。

しかし、コロナ禍を契機に『おうち時間』が浸透し、自宅でできる趣味や楽しみが増えました。お客様にとっては施設が『おうち』であり、それぞれに楽しみを探し求めようとすることは当然であっ

て、職員は、その気持ちに応える支援にシフトすることが求められています。

そんな中、各施設では、お客様に施設生活を少しでも楽しんでいただき、明るく笑顔でいてほしいとの想いから、施設の中庭を活用したカボチャ栽培など、工夫ある取り組みが行われるようになっていきます。

今はまだ、居住棟や少人数の活動であったりしますが、それぞれの要望に対し、「コロナだから」と諦めず、「コロナだからこそ」、これまで以上に一人一人の想いに寄り添い、個性がより生かされる個別支援の在り方を模索し続けなくてはならないと感じています。お客様一人一人の「想い」を「かたち」にする支援に取り組んでいきたいと考えております。



施設がお店に。
衣類や日用品の訪問販売



栽培したカボチャを行事の飾り物に



本格的！！施設内バイキング

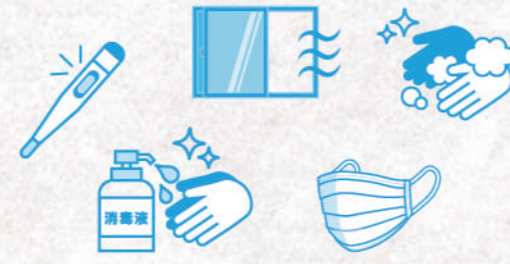


中庭の特設コースで
ゲートボール大会



新型コロナウイルスに対する取組み

〈法人・施設での対策等の推進体制〉



当法人では令和2年3月に職員陽性が確認されて以降、複数の施設でクラスターが発生するなど、新型コロナウイルスの感染対策を始め、施設内の拡大防止や施設事業の継続に向けて悪戦苦闘し続けています。

コロナ禍が長期化する中、お客様には、施設生活の楽しみや潤いの一部でもある外出等に様々な制限をお願いした結果、個性的な時間の過ごし方や楽しみ方へと拡がり、私たちの支援もこれまで以上に個別性が求められています。

本紙では、まだ終息しない新型コロナウイルスについて、対策等、これまでの取組みや向き合い方を整理、検証し、さらに充実した取組みを推進できればと考えています。

- ・クラスター施設の拡大要因や対応等の検証
- ・出勤自粛に係る施設長判断基準の見直し
- ・クラスター施設への応援職員派遣基準の検討等



役員紹介

職名	氏名	役職
理事長	太田 健三	一般財団法人太田総合病院理事長
副理事長	佐久間 弘元	専任
常務理事	穂積 富知雄	専任
理事	高橋 廣志	西郷村長
理事	竹之下 誠一	公立大学法人福島県立医科大学 理事長兼学長
理事	今野 静	公益社団法人福島県看護協会 会長
理事	國分 守	福島県保健福祉部長
監事	有賀 秀晴	(有)有賀会計センター代表取締役
監事	本田 陽子	学識経験者

評議員紹介

氏名	役職
尾形 幸子	福島県南保健福祉事務所 健康福祉部長
伊藤 公一	白河市保健福祉部長
鈴木 正	白河市社会福祉協議会常務理事 兼事務局長
小木 政夫	一の又行政区代表
関 靖男	福島県社会福祉協議会事務局長
佐川 滋	社会福祉法人清峰会理事 兼障害者支援施設さざなみ学園施設長
秋山 充司	西郷村教育委員会教育長
中山 隆男	西郷村社会福祉協議会常務理事

令和3年度事業報告

新型コロナウイルスについては、変異株の出現により、感染拡大が止まらない状況の中、「新型コロナウイルス感染症に係る指針」に基づき感染予防等の対策を徹底した。特に、職員に対しては、「施設には新型コロナウイルスを絶対に持ち込まない」という共通認識の下、健康管理の徹底や不要不急な外出の自粛等、自覚ある行動を求め続けた結果、施設内感染を防ぐことができた。

次に、新浪江ひまわり荘については、4月に開所式を迎え、お客様にとっては、ゆったりとした居住環境の下、機能訓練や創作活動等、より充実した新しい生活を開始することができた。

また、老朽化施設改築計画に基づき、太陽の国敷地内に移転・改築することを決めた「やまぶき荘」については、県等、関係機関との調整を進め、測量造成設計のほか、基本設計及び実施設計を完成させた。

次に、県による「けやき荘」「かしわ荘」の改築計画については、造成工事が完了し、令和5年度の完成に向けて「けやき荘」の建設工事が進められている。事業団としては、お客様が、より生活しやすい施設となるよう、指定管理者の立場から積極的に意見を具申するなど、援助・協力を続けた。

さらに、福祉人材の確保等が事業継続の重要課題となっている中、学校訪問やオンラインを含めた求人説明会等に加えて、求人情報サイトを活用するなど、積極的な情報発信に努めた結果、新採用職員13名を確保することができた。

一方、地域福祉については、「地域生活支援センターけんなん」に専任の相談支援専門員を増員し、相談支援体制の充実を図るとともに、スプリンクラー設置のグループホームを西郷村内に増設し、障がい者が安心して地域生活が送れるよう居住環境の整備を図った。

以上のように、新型コロナウイルス感染症等の影響による在籍率の低迷等の課題がある中でも、より一層の財政基盤の強化に努め、老朽化施設の改築に向けた建設積立金を造成するなど、事業運営は概ね順調に推移した。

令和3年度 決算報告

貸借対照表

(単位:円)

資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	1,661,630,342	流動負債	645,165,733
		固定負債	657,513,733
固定資産	7,190,843,672	負債の部合計	1,302,679,466
		純資産の部	
基本財産	3,462,048,848	基本金	10,000,000
		国庫補助金等特別積立金	2,013,185,482
		その他の積立金	2,836,531,811
その他の固定資産	3,728,794,824	次期繰越活動増減差額	2,690,077,255
		(うち当期活動増減差額)	138,134,327
		純資産の部合計	7,549,794,548
資産の部合計	8,852,474,014	負債及び純資産の部合計	8,852,474,014

資金収支計算書

(単位:円)

勘定科目	決算額
大区分	
事業活動による収支	
事業活動収入計	5,534,086,999
事業活動支出計	5,253,368,099
事業活動資金収支差額	280,718,900
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	6,190,000
施設整備等支出計	259,891,204
施設整備等資金収支差額	△ 253,701,204
その他の活動による収支	
その他の活動収入計	314,240,001
その他の活動支出計	217,682,420
その他の活動資金収支差額	96,557,581
当期資金収支差額合計	123,575,277
前期末支払資金残高	1,158,192,817
当期末支払資金残高	1,281,768,094

事業活動計算書

(単位:円)

勘定科目	決算額
大区分	
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	5,514,959,563
サービス活動費用計	5,351,040,959
サービス活動増減差額	163,918,604
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	19,127,436
サービス活動外費用計	5,628,774
サービス活動外増減差額	13,498,662
経常増減差額	177,417,266
特別増減の部	
特別収益計	7,337,751
特別費用計	46,620,690
特別増減差額	△ 39,282,939
当期活動増減差額	138,134,327
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	2,460,350,928
当期末繰越活動増減差額	2,598,485,255
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	263,423,000
その他の積立金積立額	171,831,000
次期繰越活動増減差額	2,690,077,255

「事業報告」及び「決算」についての詳細は、
福島県社会福祉事業団ホームページ
(www.fukushima-sj.jp)の
情報公開ページでご覧頂けます。



請戸漁港出初式

うけど

浪江町



浪江町にある請戸(うけど)漁港の出初式は大正時代から続くと言われる新年の伝統行事です。毎年1月2日、大漁旗をなびかせた多くの漁船によって、1年間の海上安全と豊漁を祈願するもので、水揚げの最も多かった一番船を先頭に出港し、沖では漁船に御神酒をささげます。

東日本大震災で、同港は大きな被害を受けましたが、現在は復旧工事も終了し、徐々に水揚げを増やしております。

浪江町には当事業団の救護施設「福島県浪江ひまわり荘」がありますが、東日本大震災等により西郷村の太陽の国に避難しました。現在、お客様は令和3年度当初から新しい仮設施設で安心した生活を送っております。



「太陽の国にある
新しい仮設施設」

ご利用案内

太陽の国交流センター



- ◆ご宿泊
和室:7室 洋室:2室
- ◆会議・研修・休憩等
研修室または和室・洋室
利用時間 9:00~21:00

福島県勤労身体障がい者体育館



- ◆定休日
毎週火曜日・祝祭日
- ◆利用時間
9:00~20:00
フットサルの利用もOKです!

ボランティア募集

事業団では、多様なボランティアを随時募集しています。

お話相手・習字・音楽演奏・イベントスタッフ・環境整備など活動内容は様々です。興味はあるけれど何をしたらいいかわからない方も、お気軽にご連絡ください。



〈住友ゴム工業(株)の皆さんによる環境整備〉

このページに関する
お問い合わせ

事業管理部 施設事業課

☎ 0248-25-3020



まごころ 2022/VOL.78

発行 社会福祉法人福島県社会福祉事業団
福島県西白河郡西郷村大字小田倉字上上野原5-3
TEL 0248(25)3100 FAX 0248(25)4659
URL <http://www.fukushima-sj.jp>
発行日 令和4年12月1日